

音楽科

1. これまでの取組（前年度からの課題を含む）

音楽科では昨年度まで、自らの経験を生かして創意工夫し、思いや意図の実現を楽しむ生徒の育成を目指して研究を行ってきた。生徒が各々の音楽経験を共有しながら協働的に練習や試行をすることで、音楽のふさわしさについて吟味したり仲間と共感したりしながら音楽表現を創意工夫する力が育成されるだろうと考えた。成果として、「思い通りに演奏できるように練習すること」や「みんなの気持ちを一つにして歌うこと」に対して、「より深い楽しさ」を感じる生徒が多くなった。ふさわしさを吟味する活動の積み重ねで、思いや意図を実現する楽しさを生徒が実感できたものとする。

課題は、友達と共感できた瞬間について「感動した」と答えた生徒が少ないことである。音楽を聴いて語り合い共感したときよりも、音楽表現について共有し共感したときの方が、感動が勝っていると考えられる。また、思いや意図を伝えるときや、知覚・感受したことを共有するときなど、音楽について言葉で上手に表現できない生徒もおり、音楽について自ら積極的に発信する表現力が不足していることも、共感からの感動に至らない原因だと考えられる。

今年度は鑑賞領域において、音楽について他者と対話する中で「より深い楽しさ」や「感動」を感じられるように、知覚・感受したことを共有する手立ての充実と言葉による表現力の育成を目指し、授業改善に努める。音楽のよさや美しさについて語り合い、共感や感動を覚える生徒の姿は、まさに「音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力」を体現しているものとする。以上を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体として充実させるための ICT の活用を通して、「音楽について他者と対話し、共感と感動を伴った音楽体験のできる生徒の育成」を目指す。

2. 音楽科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体として充実させる ICT の活用

「学習の個性化」では、生徒が自分の興味や関心から聴き深めたい音や音楽、音楽文化を設定し、再生リストや共有した音源を活用して、自分のペースで鑑賞や調べ学習に取り組めるようにする。

「指導の個別化」では、毎時間の振り返りや鑑賞の記録から、言葉による表現力や知覚と感受の関わりについての理解不足を見取り、音楽を形づくっている要素について図や音源で説明したヒントカードを配布したり、視聴を促したりする。

「協働的な学び」では、グループでの共同作業や回答共有を通して新たな音楽の聴き方を得られるようにしたり、他クラスや他学年の鑑賞文や成果物と対話する中で、新たな発見や共感ができるようにしたりする。

各自が聴き深めた成果について共同編集でスライドにまとめたり、プレゼンテーションを聴いた後に各自で書いた鑑賞文を他クラスや他学年と共有したりして、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体として充実させていく。このような学びを通して、音楽を鑑賞する中で得られる発見や感動を他者と共有し、共感と感動を伴った音楽体験のできる生徒の育成を目指す。

3. 問題解決の各過程における ICT の活用（鑑賞領域における活用例）

問題解決の過程	ICT の活用
つかむ	<ul style="list-style-type: none">協 ロイロノートで課題に対する予想やアンケート結果を共有し、比較検討する。個 再生リストや共有した音源を活用し、イヤホンを使って各自で鑑賞曲を聴く。
追究する	<ul style="list-style-type: none">個 鑑賞曲の背景に対して、ウェブブラウザで知りたいことを各自で検索する。協 Google スライドで鑑賞曲についてのプレゼンテーションを共同編集する。個 音楽を形づくっている要素について図や音源で説明したカードを配布する。
まとめる	<ul style="list-style-type: none">協 Padlet に鑑賞文やプレゼンテーションを投稿し、多様な他者と共有する。個 音楽科の Google サイトに埋め込まれた関連動画や再生リストを活用して、学習で得た関心を授業外に広げる。

3年 世界の諸民族の音楽の多様性を感じ取ろう

題材の目標

- ・諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解する。
- ・リズム、旋律、テクスチャ、構成、速度を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに生活や社会における音楽の意味や役割、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。
- ・諸外国の様々な音楽の特徴に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。

1 鑑賞曲の初発の感想や、課題を共有する。

○ 鑑賞曲を聴き、特徴や疑問点を共有する。

- ・グループごとに異なる音楽を鑑賞し、その音楽の特徴を3つ挙げる。
- ・全体でA～Hの8種類の音楽を聴き、その特徴を聴き取りながら、どのグループの音楽の特徴と一致するかを予想する。

○ これまでの学習を想起しながら、題材の課題を立てる。

- ・答え合わせをしながらA～Hの音楽を鑑賞し、3つの特徴やそれ以外の特徴を実際の音で確認する。
- ・どの国や地域の音楽っぽいかな、なぜそう感じたのかについて全体で共有し、題材の課題を立てる。

題材の課題：世界の諸民族の音楽の多様性には、どのような歴史や背景が関わっているのだろうか。

2 課題の解決に向け、視点を変えて鑑賞する。

○ 映像付きで全体で鑑賞する。

- ・その音楽の特徴がどのような生活や社会、伝統や文化から生まれたものなのかについて、映像を見て考えながら鑑賞する。
- ・鑑賞して気付いたことや考えたことを、ペアやグループ、全体で共有する。

○ 気になることを調べながら、各々で鑑賞する。

- ・全体の鑑賞で気になったことや興味をもった音楽を中心に個人で鑑賞する。
- ・鑑賞しながら、楽器や国、音楽の種類、文化、宗教など、その音楽と関わっている事柄について検索し、理解を深める。

3 鑑賞文を書き、共有して、学習を振り返る。

○ 批評文を書いて、鑑賞を通して感じたことを共有する。

- ・「音楽の多様性」について、生活や文化などと、どのように関わっているかを考え、紹介したい音楽を中心に批評文を書く。
- ・音楽科のGoogleサイトから「3年生のPadlet」に鑑賞文を投稿し、他の人の鑑賞文を読んで理解を深める。
- ・学習した音楽が自分や世界とどのように関連しているかを考え、理解を深める。

ICTの活用のポイント 個 協

個 イヤフォンを使って各自で鑑賞することで、気になる部分を繰り返し再生し、自力で知覚・感受したことを基に自信をもって交流できるようにする。

協 グループでまとめた特徴3つをロイロノートで共有し、すべてのグループの音楽の特徴をモニターに表示することで、全体で特徴を確認し、予想や知覚・感受したことを伝え合いながら鑑賞することができるようにする。

個 Google 検索で気になる語句について検索することで、その言葉の意味だけでなく、楽器や演奏している場面の写真、その地域の服装や建物、地図上の位置などの知識を得たり生かしたりしながら鑑賞することができるようにする。

協 Padlet で他クラスや他学年と鑑賞文を共有できる状態にしたり、鑑賞文に対して互いにリアクションできる状態にしたりすることで、他者の気付きをもとに聴き直したり、鑑賞文を書く活動に目的意識をもって取り組んだりできるようにする。

個 Google サイトに載せた関連動画や再生リストを活用し、学習を通して得た知識や音楽の味わい方で鑑賞することで、学習した音楽と自分や世界との関わりについて理解を深めることができるようにする。

つかむ

追究する

まとめる

世界の諸民族の音楽の多様性を感じ取ろう



ICT 活用のポイント

個人鑑賞のメリットを生かす／鑑賞文の多様な他者との共有を実現

<目標>

諸外国の様々な音楽の特徴とその特徴から生まれる音楽の多様性について理解するとともに、生活や社会における音楽の意味や役割、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。

前時の学習を想起し、本時の課題をつかんで鑑賞する。

- ・映像付きで全体で鑑賞する。
- ・全体で鑑賞したことで、気になったことや興味をもった音楽を中心に個人で鑑賞する。



生徒が興味に応じて鑑賞する、学習の個性化

個 一斉で聴いて身体全体で感じ取る鑑賞に加え、1人1台タブレット端末の環境によって、個人での鑑賞(ロイノート上の限定配信や、音楽科のGoogleサイトへの埋め込み)が可能になる。各自が気になる部分を聴き返し、他の音楽と比較しながら鑑賞したり、背景となる生活や社会、歴史的な位置付け等を検索しながら鑑賞したりすることで、それぞれの音楽について細かな音の知覚・感受をすることができるようにする。

鑑賞文を書いて、鑑賞を通して感じたことを共有する。

- ・「音楽の多様性」について、生活や文化などと、どのように関わっているかを考え、紹介したい音楽を中心に批評文を書く。



学級・学年を超えた、多様な他者との共有

協 鑑賞文をGoogleサイトに埋め込んだPadletに掲載することで、他クラスや他学年の多様な他者の考えを知ることができる。また、鑑賞文が他者に読んでもらうことや互いにリアクションすることが前提となるため、鑑賞文を書く際に目的意識が加わり、音楽について自分の考えを発信する表現力の育成にもつながる。多様な他者と気付きを共有しながら音楽を聴き直し鑑賞することで、友達の考えに共感したり、新たな発見に感動したりすることができるようにする。

生活とのつながりを考えながら、振り返りを行う。

- ・鑑賞文について教師からの解説や価値付けを聴き、理解を深める。
- ・身の回りの音楽との関わりについて知り、学習を振り返る。



関連する音楽や動画を共有し、振り返る。

個 関連動画や再生リストを音楽科のGoogleサイトに埋め込んでおくことで、鑑賞文を書き終わった時間や家庭学習で、興味のある音楽について鑑賞を続けることができるようにする。

個人での鑑賞とPadletでの共有により、鑑賞で得られた興味・関心を基に各自で理解を深め、鑑賞文を通して友達の考えや新たな発見に共感と感動を得ながら、音楽の多様なよさや美しさを味わって聴くことができた。

4. 成果と課題

実践を終えての成果

- 今まで自分のクラスでしか共有できていなかった鑑賞文や成果物を、他クラスや他学年とも共有したり、鑑賞文に対して互いにリアクションできる状態にしたりすることで、他者に伝える意識をもって鑑賞文を書くことができた。音楽について根拠をもって批評する活動に目的意識をもたせることで、他者に対しての発信力や表現力の育成につながったと考える。
- 1人1台タブレット端末とイヤフォンを使って各自で聴くことで、自分の興味のある部分や気になる部分を細かく繰り返し鑑賞することができた。

細かな音の知覚・感受(図1)ができたことで、自分が気付いたことに自信をもって交流し、友達と音楽について語り合っ共感や感動を得ることができた。

- 気になる楽器や関連のある文化等についてその場で調べながら鑑賞することで、具体的なイメージを膨らませながら音楽を聴いたり、楽器や文化についての写真や記事を友達と交流したりしながら鑑賞することができた。
- グループでプレゼンテーションを共同編集することで、音楽について複数の視点で語り合いながら鑑賞することができた。また、生徒が作成したスライドから、要素に対しての理解不足を見取り、個別に指導をしたり、全体で要素との関わりについて補足したりすることで、今まで聴こえていなかった音に気づき、仲間と共感し感動する瞬間を生み出すことができた。
- Google サイトや Padlet (図2) で共有した鑑賞文や成果物を活用して、本時の課題について考えたり、次の題材の課題につなげたりすることができた。

実践を終えての課題

- 他教科と連携し、Google サイト、Padlet を生徒が習慣的に目にするツールにすることで、多様な他者との交流がより促進され、音楽について共感し感動を分かち合うことの価値に気付けるようにしたい。
- 「指導の個別化」への ICT 活用についてはまだ不十分であると感じる。音楽を形づくっている要素についてのカードに限らず、表現・鑑賞の両領域において基礎的な知識及び技能の定着のためにショートムービーを作成し、Google サイトやロイロノート等で共有することで、必要な生徒が必要なときに復習ができるようにする。また、生徒の実態に合わせて個別に視聴を促すことで、一人一人の課題に合わせて自ら学習を調整できるようにしていきたい。

<参考文献>

群馬県教育委員会 (2019) 『はばたく群馬の指導プランII』

国立教育政策研究所 (2020) 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校音楽』 東洋館出版

日本音楽教育学会 (2019) 『音楽教育研究ハンドブック』 音楽之友社

文部科学省 (2018) 『中学校学習指導要領解説 音楽編』 東洋館出版

3 それぞれの音楽を鑑賞して、特徴を感じ取ろう。

国・地域	音楽・楽器(名前)	楽器の特徴	音楽の特徴	音楽を聴いて感じたこと
(※例)	演奏形態や楽器そのもの	演奏方法、材質など	リズム、旋律、重なり、構成、速度など	受けるイメージや、文化、生活との関わり
A	トルコ
B	西アフリカ
C	メキシコ
D	南アフリカ
E	東アフリカ
F	インド
G	ロシア
H	中国

<図1 細かな音の知覚・感受をまとめたワークシート>



<図2 音楽科のGoogle サイトの一部>